

I 法人の運営

会員数 令和5年3月31日現在

【正会員個人】54人／【特別会員】34団体／【賛助会員】4人 合計 92(34団体、58名)

- ◆新型コロナウイルス感染症が、年度後期になり徐々に減速し、新しい生活様式の定着と with コロナ環境が広がりました。それに伴い、子育て支援の場に、乳幼児親子や地域の人たちの来所が増えていきました。感染症対策(横浜市ひろば等のガイドラインを基に、定員制、遊具の消毒、入れ替え、館内消毒清掃)新しいひろば様式に沿った運営を行いながら、神奈川区地域子育て支援拠点では、様々な事業を展開しました。
- ◆妊娠期から子育て期の親たち、子どもたちは、このコロナ禍において、日常を取り巻いていた多くの体験の場、人とのふれあいの機会を失って過ごしてきました。身近な寄り添い型支援による、安全・安心な親子の居場所が、子育て家庭の身の回り、そこここにあることが、何より心のよりどころになります。各すくすくかめっ子親子のたまり場・親と子のつどいの広場は、それぞれの方針、方法を模索(休止含む)しながら、地域の親子に向けて場を開き、継続してきました。法人は、ネットワークで繋がる各子がめ隊と連携を図り、情報を集め、ホームページでの周知、訪問、相談、必要に応じた情報提供等を行いました。併せて、他機関等へ波及効果の大きい「かなさんぽ」事業を立ち上げ、産前産後編・地域デビュー編等のテーマを設け、神奈川区内、地域ケアプラザエリアの場を巡り、参加者間、支援者間の交流を育みました。
- ◆身近な地域の「場」の意義を更に確認しつつ、一方でコロナ禍だからこそ整備された、オンライン事業やオンラインによる関係各所との打ち合わせが定着しました。リアルではなくても顔が見えるツールを共有することで、コミュニケーションが深まり、すき間時間での打ち合わせを丁寧に重ねることが事業に反映されました。オンライン事業を通じて、拠点等へ来所しない層との出会いに繋がりました。まだまだ深い感染への不安等の声を聴くと共に、在宅で気軽に、子育てに関する学びや地域情報が得られ、人と語り合えるオンライン事業の効果を実感しています。
- ◆神奈川区主催による「第8期地域づくり大学校」の運営を、認定NPO法人市民セクターよこはまから受け継ぎました。“ギューグッとつながる!人・コト・縁”をテーマに、神奈川区区政推進課と協働し、神奈川区内で培ったネットワークを活かし、受講者を区内の多様な地域活動に繋ぎました。
- ◆令和5年度、国に子ども家庭庁が創設されました。“子どもまんなか社会”を掲げ、子育て・子育て支援施策も大きく舵が切られる変革の年となります。法人も、より広いネットワークに参画し、マクロの視座を学びながら、準備を進めてきました。市民として、地域づくりに関わる立ち位置を大切に、それぞれの現場から声を聴き、今後も柔軟な運営に臨んでいきます。

II 神奈川県地域子育て支援拠点かなーちえ

1) 親子の居場所事業

●新規登録者数：1302人(東神奈川882人／サテライト420人)

年間利用者数：44702人(東神奈川25712人／サテライト16245人／支援者2745人)

【父親利用】2051人／【祖父母利用】133人／【きょうだい】2974組／【プレママパパ】229人

●アウトリーチ総数：5612人(ひろばの利用者数には含まれない人数)

<東神奈川>

- ・With コロナとなり、後期より利用者が増えました。多様な人や価値観が混ざり合うひろばづくりを目指しました。
- ・コロナ禍において、親子共に体験の場、人とふれあう機会が激減している状況と、その影響を把握し、様々な時間を届けました。特に乳児期の親子ふれあいタイムの内容を、より伝わりやすいもの、日常に活かせるものに更新しました。
- ・乳幼児の育ちの場であることを常に認識し、各年齢に応じた遊具、環境を整備すると共にプログラムを定期的に導入しました。2歳以上の子どもの関わり合いを生み出す、ごっこ遊びに繋がる遊具・素材を日常的に用意し、広げました。
- ・土曜日はきょうだい児の利用が多く、異年齢の子どもたちの自由なやりとりが広がり、それを大らかに見守り合う姿が見られました。また、拠点利用児が中学生になり、ボランティア実習に訪れる等、親だけではない、子どもがサポート側として場を見守る循環が見られるようになりました。その都度、ひろばでその旨を伝え「つながっていくこと」の実感を共有しました。
- ・父親の利用が日常化し、土曜日は特に多い傾向の中、先輩父親グループによる対話タイムや事業が定着しました。
- ・子どもの発達の見通しを学び、子ども同士の成長過程を見守り合う親同士の意識の醸成を育むことを大切にしました。また、乳幼児期の親としての他との関わりや体験が、学齢期の地域づくりに繋がることを心がけた働きかけをしました。
- ・利用年月が長いきょうだい児親がいることで、子どもの育ちを大らかに見守り合い、「お互い様の子育ち・子育て」の大切さを、当事者間で伝え合う空気が広がりました。また、小学生になった子どもと親が地域ボランティアとしてひろばにいることで、多様な人々が乳幼児親子に寄り添い、声をかける居場所に育まれました。
- ・語り合いや話し合い、参加型ワーク等、親同士が学び合う機会を設けました。親としての自分だけでなく、「私」として様々な語り合いや繋がり、交流が生まれる「対話の場づくり」として、常設のひろばが機能しました。
- ・就労型社会へ移行し、早期に職場復帰する人が増える中、親子が地域の中や人との間で育てられ、支えられた直接体験の機会を積み重ねられるよう、より多くの参加者を受け入れ、事業を更新しました。
- ・妊娠期から拠点や地域の間と繋がることで、親も子ども地域の人の中で生まれ、支え合うという実感を得られるよう、丁寧に働きかけました。併せて、妊娠期対象事業を新設(オンライン含む)しました。
- ・生涯学習の視点で、ちえのわタイム(61回)・参加型ワーク等を企画し、学びを共有しました。

<入江・新子安サテライト>

- ・開設2年目となり、土曜日の利用や、第2子以降の妊娠出産等で再び来所となる親子も多くいました。父子・幼児・きょうだい児の利用が多く、様々な人の集いが日常的にあり、初年度に生まれた利用者同士の繋がりや関わり合い、見守り合い等の姿が見られました。温かいひろばの雰囲気や様々な親子のやりとりを、新たな来所親子へ伝える機会となっていました。
- ・様々な親子にとって、過ごしやすく安全で、子どもの育ちを大切に環境に向けて、見直しを行いました。初年度からの気付きを基に、スタッフ間で繰り返し話し合い、室内コーナー、遊具配置、幼児向け遊具等の内容や量等を整備しました。
- ・デッキや庭の戶外空間を、より日常的に親子が楽しんで活用できるように、砂場、屋外遊具等の充実を図りました。幼児やきょうだい児親子の庭利用が増え、遊びながらの親同士の交流にも繋がりました。
- ・各プログラムが来所のきっかけ、参加者の繋がり、その後の繰り返しの利用に繋がること等、年間を通し、その都度スタッフ間で確認し合いました。マタニティプログラムに、乳児親子とのふれあいを丁寧に取り入れる等、どのプログラムにあっても、人と人が繋がるきっかけとなる語り合いの内容や、場面を見直しながら、定着を進めました。
- ・子ども同士のけんかやとりっこ等、ひろばで起こる様々な場面、状況を捉え、スタッフ間で繰り返し振り返りました。利用者と共に子どもの育ちを育むひろばづくりに努めました。
- ・緊急時の対応について、ロールプレイによる学び合いの場を持つ等、チーム対応を深めました。

2) 子育て相談事業

●ひろばや出前等の年間相談件数：6758人／12181件

●専門相談：【栄養士】30回／【臨床心理士】25回／【言語聴覚士】29回／【助産師】12回

<東神奈川>

- ・敷居の低い日常の場において、何気なく交わされる話の中から、相談に繋がりました。
- ・トーク形式のプログラムを度々行うことで、子育て中の親同士が、共感し、相談し合う関係が生まれました。スタッフがファシリテーターとして入ることで、当事者の生の声を聴き取り、ニーズを拾い、更に事業に繋げていく循環も生じました。
- ・日常的に、利用者支援事業“横浜子育てパートナー”や、子育てサポートシステムとの連携を行いました。
- ・就労家庭の増加に伴い、専門相談の土曜開催を実施しました。多様な相談が寄せられ、相談の幅が広がりました。
- ・マタニティプログラムを定期的開催することで、妊娠期の漠然とした不安等を、事業を通して把握しました。

<入江・新子安サテライト>

- ・ひろば開設から2年目を迎え、拠点の多機能を活かした、寄り添い型の相談対応に全スタッフで取り組みました。(ひろば相談、専門相談、当事者同士の対話型プログラム、利用者支援事業との連携等、多機能の連動)
- ・スタッフは各種研修への参加と、ひろばでの実践を並行しながら、傾聴やファシリテーションの力を高めていきました。毎日の振り返り、スタッフミーティングでの検討と、必要に応じてスーパーバイズを行いました。
- ・専門相談が、利用者ニーズに繋がるよう、タイトルや周知を工夫しました。年間を通して専門家に気軽に相談できる機会があることが定着し、専門相談を利用する人が増えました。
- ・利用者自身が相談室での話を希望する等、多様な相談を活用するようになりました。
- ・区両親教室や窓口での周知によって、マタニティプログラムだけでなく、助産師トークや日常ひろばにおいて、マタニティ家庭の参加が増えました。産前からの利用が、妊娠期の不安軽減や産後イメージの獲得になると共に、出産後に地域の居場所に出向きやすくなる流れも見えてきました。

3) 子育て・地域情報の収集と提供事業

●【子育て・地域情報の収集】行政(区福祉保健センター等)、施設(親と子のつどいの広場、地域ケアプラザ、保育所他、健康・国際・就職・各種相談機関)、地域(かめっ子、地域グループ)、当事者の活動、民間企業による地域貢献事業

●【情報の提供】通信(164か所)、ホームページ、Instagram

<東神奈川>

- ・昨年度までの実績を基に、オンライン開催・オンライン申込みを精査しました。これにより、オンラインの特徴を活かしながら、閉館時の申込み受付、終了後アンケートからの講師へのフィードバックも、正確に迅速にできるようになりました。
- ・拠点利用人数制限を設ける中、混雑状況がスマホからも確認できるように(★マークで表示)しました。
- ・子育て世代に利用者が多い、SNS(Instagram)で、積極的にひろばの様子や情報、実施報告を投稿しました。また、Instagramと共に、地域SNSアプリ「ピアッザ」の周知も行いました。
- ・HPにて、すくすくかめっ子をはじめ、近隣の居場所情報、オンラインプログラムの情報を引き続き伝えました。
- ・子育て家庭応援事業「ハマハグ」の申請を行い、従事する地域グループのネットワークを更に広げ、新たに21件の協賛店舗を増やし、利用者へもハマハグ掲載情報を周知しました。

<入江・新子安サテライト>

- ・道路に面して、掲示板を新設しました。情報が見え、通信を手にとれるようにしました。通りがかりの親子や、散歩中のマタニティ家庭、地域の人に向けて、発信力が高まりました。
- ・拠点に来ない層に向けてのアプローチや、世代に合う方法での情報発信として、アウトリーチ(青空サテライト)や SNS(Instagram)を充実させました。
- ・出産して間もない家庭に情報が届くよう、こんにちは赤ちゃん訪問員向けのチラシを作成し、継続してPRしました。
- ・情報整備の人材を確保し、ひろば内でのレイアウトや掲示の仕方等、ひろばに来た人が、より自ら情報を手に取りやすいようにしました。

4) 子育て支援者のネットワーク事業

●【地域で活動している個人・グループによるちえのわタイム】61回、【公園・プレイパークへの出前】84回、
【共催事業】24回

<東神奈川>

- ・コロナ感染拡大防止が緩和されると共に、すすすくかめっ子親子のたまり場を始め、地域の子育て支援の場が開催していることのお知らせや、開催状況の報告が、随時届くようになりました。
- ・また、各施設との共催事業も検討し、入場者数に制限はあるものの、3年前に近い事業開催となりました。(かなプラタイム・かなちくタイム)
- ・併せて、各地域の子育て支援に関わる会合も、順次再開し、改めて地域毎のネットワークづくりを再確認できました。
- ・地域活動を行う個人・グループの取り組みを、ひろばで紹介する機会を設け、更に、新しいプログラムにも取り組みました。
- ・外で開催するプログラムも積極的に行き、外遊び・相談情報提供の他に、地域資源を紹介する「かなさんぽ」を新設しました。参加対象は、妊娠期から子育て初期の親子向けですが、協力者には、地域の子育て支援グループ・施設職員にも声をかけることで、身近な地域をテーマに、お互いを紹介し合う、新たなネットワークづくりに発展しました。(東神奈川6回・サテライト2回)
- ・ネットワーク交流会や、オンラインを活用した学びタイムも開催しました。
- ・民間企業の中でも、積極的に地域貢献活動を行なっている企業とは、地域に繋がるような働きかけを行いました。

<入江・新子安サテライト>

- ・コロナ禍が落ち着きを見せ、地域主催のイベントが再開する等、子育て・子育て支援の機運が高まる中、情報のやり取りが密になり、新たな施設との関係等、地域に根付いた情報交換や活動が増えてきています。
- ・地域住民、地域施設によるネットワーク会議「新子安地区子ども未来会議」に参画。そこでの繋がりから、一緒に事業に取り組んだり、地域の民間学童保育と季節のイベントを一緒に行なったり、関係が広がりました。
- ・東神奈川と連携し「おもちゃ病院」を初めて実施し、令和5年度への定期開院へと繋がりました。
- ・「よこはまプレイキャラバン」@子安台公園の開催時に、自治体・公園愛護会、地域の団体に声をかけ、一緒に取り組みました。外の自由な場で、新たな出会いや地域での繋がりが深まる機会となりました。
- ・アウトリーチとして、新たな公園での外遊び「青空サテライト」をスタートしました。育児支援センター園と話し合いを重ねて実施、近隣のすすすくかめっ子会場の支え手とも顔が繋がり、親子を支えるネットワークとして定着しました。

5) 子育て支援に関わる人たちの人材育成・活動支援事業

●【ネットワーク交流会】4回／【ネットワーク学習会】11回

●【学生・職員の実習】延52人／【学生ボランティア】延62人／【地域ボランティア・親子ボランティア】延418人

<東神奈川>

- ・父親向け講座を利用者の父親が主体的に企画できるようサポートしました。また、毎月行なっている「パパの子育てトーク」を当事者の父親がファシリテーターとなり、活動できるよう、サポートしました。
- ・「かながわ支え愛プラン」の基本理念・基本目標①「一人ひとりが生き生きと自分にできることを地域で発揮できる環境をつくります」②「若い世代が地域の活動に参加しやすい工夫や仕組みをつくります」を目指し、地域の活動に取り組むきっかけの講座「地域デビュー講座」を、区役所や区社協と共に、企画・実施しました。また、来年度はエリア別で企画できるよう、ケアプラザに提案しました。
- ・コロナで休止していた高校の家庭科の授業を、対面で開催することができました。更に、親子とふれあえる授業に発展しました。
- ・区と共に、コロナ禍で休止していたすすすくかめっ子事業方面別交流会・全体研修会を再開しました。交流会では、各子がめ隊の課題を聞き取り、訪問、更に次年度に繋げました。
- ・「よこはまプレイキャラバン」を通して、地域の外遊び活動グループや支援者、つどいの広場のスタッフ、かめっ子支え手、民生委員等に呼びかけ、利用者と身近な地域で繋がる機会をつくと共に、外遊びの楽しさを共有しました。
- ・すすすくかめっ子、外遊びのパンフレットの見直しや、区報10月号「外遊び特集」の取材に協力しました。
- ・今年度は地域ボランティアが増えたので、ボランティア同士の交流会を行いました。また、小学校に入学した子どもと母親の要望で「親子ボランティア」という仕組みをつくりました。

<入江・新子安サテライト>

- ・10代から70代のボランティアによる継続した活動が、年間を通してありました。転出入と核家族の多い地域で、ひろばや外遊びの場が多世代交流の場となり、町中での声かけにまで広がりました。
- ・すすすくかめっ子の地域別交流会の会場、研修会のオンライン中継会場として、近隣のすすすくかめっ子と連絡を取り、行き来する機会が増えました。支え手ひとり一人と顔の見える関係を積み上げました。
- ・今後の学生実習に向けて、社会福祉士実習指導者の認定を受けました。

6) 子育てサポートシステム神奈川区支部事務局運営事業

●令和5年3月末日付会員数：【利用会員】853人／【両方会員】140人／【提供会員】50人

●事業：【入会説明会参加者】287人／【援助実績】2797件／【研修会】7回

- ・昨年同様、産前産後の園送迎依頼は多く、提供会員へ検討しやすいよう丁寧に聞き取り、活動に繋げることができました。
- ・活動報告書の提出で来所する提供・両方会員と、活動に対する不安や要望がないか、対策を一緒に考えることができました。
- ・集団の入会説明会を夕方に開催することで、仕組みや主旨を丁寧に伝えることができました。また、調整の難しい家庭には、個別での入会説明会を随時行いました。
- ・区と連携し、配慮の必要な家庭へのサポートを、繋げることができました。
- ・入会時や通信、事前打ち合わせ等でオンライン登録を周知することで、ハガキでの更新案内（一部書類郵送）でも手続きをスムーズに行うことができました。（Web更新者 67%）
- ・令和5年度に配布する無料クーポンに関する新規事業に向けて、数々の課題をクリアすべく、局と18区が共に協働で取り組んでいること、将来に繋がる伴走型支援の一步となっています。
- ・新規事業に向けて、提供会員募集を積極的に行うことが更に必要となります。関係機関とも連携を取り、効果的な周知活動を探っていきます。また、それに伴う事務作業、既存会員への対応の準備を進めていきます。
- ・難しい援助依頼や、会員への対応は増える一方なので、コーディネーター自身のケアも必要です。外部の研修等にも参加し、スタッフ間で共有していきます。

7) 利用者支援事業

●年間相談件数：505件

<東神奈川>

- ・子どもへの感染症も広がり、子育て家庭の困難は続き、その不安を反映した相談も続きました。感染症に対応した新しい生活様式にも慣れてきた頃であっても、積極的に外へ出向く層と不安感が大きく外へ出向かない層と二極化が進んだように思います。
- ・それぞれの家庭の価値観を大切にしつつ、感染症対策と交流や事業のバランスを考えながらの1年でした。より身近な地域での支援が充実するよう、地域との連携を進めています。
- ・子育てサポートシステムを入りに、利用者支援に繋がる例、また、日頃から気になる事例を共有していることで対応に活きた例があります。多機能型拠点の利点が活かされました。
- ・利用者支援専門員が直接対応するだけでなく、ひろばの相談対応を共有し、共に検討を行うことで、拠点全体で親子を見守る体制が充実してきました。
- ・子ども家庭庁、出産子育て応援給付金等、制度が大きく変化する中、全国レベルでの研修等の機会も活用しながら、その動向を注視し、学びを深めました。
- ・就園の相談が多く、保育へのニーズがますます高まっています。保育・教育コンシェルジュと連携して対応しつつ、復職後や子どもが大きくなってからも様々な形で拠点や地域と繋がりを持っていけるよう、周知や土曜事業の工夫をしました。
- ・マタニティ期から父母共に拠点や地域と繋がり、その家庭なりの子育てが構築していけることをねらい、プログラムの工夫や展開を拠点スタッフと共に考え、実施しました。

<入江・新子安サテライト>

- ・サテライト地域で、公園や保育園の園庭開放、多世代が集う地域の居場所等、様々な場に出向く機会を広げ、拠点に出向かない親子や学齢期等、切れ目のない相談に応じました。
- ・新たに立ち上がった入江町公園外遊び応援隊において、出張相談と情報の出前を通して、担い手と利用者対応についての振り返りや運営について共有し、関係を深めながらサポートしました。
- ・育児支援センター園と新たに連携し、互いの機能や地域支援について相互理解を深め、親子を見守る体制を築きました。
- ・拠点のネットワークから、神奈川区に日本語教室を立ち上げるために発足したボランティア団体と繋がり、同地域でスタートしたグループと、互いに外国籍親子の居場所として、現状を共有しました。
- ・区社協のコーディネートで、地区社会福祉協議会と話し合いを重ね、新たな関係がつけられたと同時に、コロナ禍で中断していた子ども会の行事の再開に取り組みしました。特に、入江地区社会福祉協議会と話し合いを重ね、新たな関係がつけられたと同時に、行事再開に取り組みしました。

Ⅲ すくすくかめっ子事業

● 訪問活動：神北地区・大口七島地区・松見第3地区・宮向地区

● 季刊紙発行：4回

支え手アンケート調査の結果、かめっ子訪問、方面別交流会・全体研修会等を掲載しました。

● 方面別交流会：6回、53名

9/28 片倉三枚地域ケアプラザ、9/30 六角橋地域ケアプラザ、10/3 かなーちえ

10/7 菅田地域ケアプラザ、10/24 神之木地域ケアプラザ、10/31 かなーちえサテライト

● 全体研修会：24地区、40名

テーマ：「これからの子ども子育て支援

～就労家庭の増加と子育て事情の変化 かめっ子のできること・必要なわけ～

講師：関東学院大学元教授・NPO法人こどもと未来～おひさまでたよ～ 土谷みち子先生

● 事業の振り返り

・方面別交流会・全体研修会を、3年振りに開催することができました。コロナ禍、with コロナとなつてからの、各々のかめっ子の様子や運営の工夫、20周年時に作成した、“すくすくかめっ子 20周年記念動画”の視聴を通して、改めて「身近な地域に多世代が顔を合わせ、語り合う、親子のたまり場の意義」を確認する時間になりました。「つながりは生きる力」という言葉が、22年継続するこの事業の根っこにあり、地域で長年にわたって支え続けてくださる支え手の皆さんたちと直接会って、話を交わすことで、自分自身が元気になっていく威力を実感する大切な機会でした。

・かめっ子訪問では、4か所の会場共に、利用者から、かめっ子が再開された喜びや、予約が要らない子育て支援の場が身近にあることへの感謝の声が多数寄せられました。

また、各々の支え手さんたちから、コロナ禍でのご苦労や、話し合いを重ねながらの開催、親子からもらえるパワー、支え手さん間で語り合えることの喜び等の声を、現場で伺うことができました。

こうした、多くの貴重な声を、区と共有し、今後のすくすくかめっ子事業に活かしていきます。

Ⅳ 第8期 神奈川区地域づくり大学校事業

● 事業目的：

・地域で活動する区民が「神奈川区地域づくり大学校」で、地域の様々な課題を解決していく力を養うため、先進的な取組事例を学ぶと共に、グループワークを通じて課題解決の手法や魅力づくりを学び合う場を提供します。

また、自治会町内会を始め、地域での活動に繋がる人材の発掘を目指します。

・卒業後も、それぞれの具体的なアクションが繋がりに合うように、チームで知恵と力を寄せ合います。

・参加者同士の繋がりを念頭に、企画設計をしていきます。時間配分にゆとりを持ち、柔軟に進めていきます。

・似ているテーマが協力し合えるよう仕かけをし、卒業式後も活動・繋がりを維持していく設計を試みます。

・地域ケアプラザ・区活センター職員との、長期的な連携の足がかりとなるよう、試みます。

・参加者をお客様にせず、場を一緒につくる意識を醸成し、繋がりを意識する雰囲気づくりを行います。

・開講期間内に、地域の様々な場へ見学・体験できる機会をつくり、自分の活動プランの具現化や地域活動に関わる思いを掘りさげていきます。

● 実施体制：

神奈川区連合町内会自治会連絡協議会、神奈川区役所、特定非営利活動法人親がめ

(協力：社会福祉法人横浜市神奈川区社会福祉協議会)

●対象者：神奈川区内在住・在学・在勤の方、受講者 29 名

- ・これから地域で何かやってみたい方
- ・神奈川区で自治会町内会等の地域活動（青少年指導員、子ども会、おやじの会等）に関わっていて、新たな活動や活動の見直しを考えている方
- ・その他の地域活動に関わっていて、新たな活動や活動の見直しを考えている方

●実施期間：

- ・11/6 「ここからはじまる地域づくり大学校」～すごろくワークでお互いを知ろう～
- ・11/27 「仲間とすすめる地域活動のつくり方」～未来はどんな地域であってほしい？～
- ・12/18 「いろいろな活動のカタチ」～先輩たちが語る♪私の活動の原動力～
- ・1 /29 「アイデアを磨く!」～対話×ひらめき×対話～
- ・2 /26 「終わりがはじまり!」～やりたいことを地域につなげるアクションプラン発表会～
※アクションプラン（地域で実践したい取り組み具体化した計画）を講座の中で作成、提出をもって卒業
- ・9/30、1/21 第7期までの卒業生も含めた交流会

●事業成果：

- ・地域づくりや地域活動における5つの柱を、受講生が対話型で学び合い、感じ合う講座となりました。（5つの柱：①対話力をつける②知る力をつける③地域活動に必要なスキルを学ぶ④実践の場から感じる⑤ネットワークに繋がる）
- ・その成果として、27名の地域で実践したい取り組み、具体化した計画、アクションプランを、冊子の形にまとめ、関係各所に配付しました。
- ・受講生同士が、繋がるツールを持ち、来年度に向け、個々のみならず受講生全体で活動を企画する等のアクションが受講生発信で起こっています。
- ・拠点の成果としては、講座の開催によって、地域子育て支援拠点を知らなかった人が足を運ぶ機会となり、幅広い層の方への周知となると共に、継続して地域活動や子育てに関する相談が持ち込まれ、拠点が地域における子育て子育ての目的の基に、活用される契機となりました。
- ・法人として、区政推進課との年間を通じた話し合いや講座準備を通して、協働を継続して実践する経験を得、そのエッセンスやノウハウが蓄積されました。

V 親と子のつどいの広場事業(しゅーくるーむ)

親子が気軽に集い、交流できる居場所を、身近な地域で利用できるよう取り組む。

テーマ「みんなで育ててみんなで育つ」

1) 子育て親子の交流、つどいの場の提供

●新規登録者数：62組 / 年間利用者数：2743人

- ・常連の利用者を中心として、初来所や1組だけで来ている親子にもお互いに声をかける雰囲気ができています。利用者も一緒に広場のことを考えていけるような取り組みを続けることで、利用者自身が「心地よい広場づくり」を意識してくれるようになっていけると感じます。
- ・利用者一人ひとりに合った関わり方をスタッフが感じ取り、工夫することで、全体として居心地の良い雰囲気づくりに努めました。
- ・間に消毒・清掃タイムを入れた2部制を継続し、それぞれの時間帯の中で、ライフスタイルに合わせた利用が見られました。感染予防対策を実施していることを利用者が理解し、安心感を持って利用ができると好評でした。
- ・保育園・幼稚園の入園前トーク等、テーマを絞ったトークタイムを実施し、利用者同士の情報交換や気持ちの共有をする時間を設けました。

2) 子育てに関する相談、援助の実施

- ・日頃からの関わりを通して、関係性を築き、相談しやすい雰囲気づくりを行いました。
- ・利用者の話にしっかりと耳を傾け、相談内容によっては区で行われている相談日や各行政サービス、保育所等の情報を伝え、利用者自身が選択できるような援助を行いました。
- ・利用者同士で相談・解決できるよう、スタッフがパイプ役となって繋げながら、情報・資料の提供等の支援を行いました。
- ・広場で起きた様々な事例に関して、スタッフ間で共有・意見交換をすることで、一人ひとりが状況に対応できるようなスキルを身につけることに繋がりました。
- ・4か月に1回、横浜子育てパートナーが来訪しました。(相談や情報発信)

3) 地域の子育て関連情報の提供

- ・地域や関連施設、地域子育て支援拠点と連携し、情報収集に努め、利用者が手に取りやすいように掲示したり、各々のニーズに応じてスタッフから手渡す等、情報提供をしました。
- ・地域の子育て支援ネットワークと連携を取り、情報発信を図りました。
- ・近隣の福祉法人施設・地域コーディネーターと連携を取り、共催イベントの実施や情報提供等、交流を図りながら情報発信に協力してもらいました。

4) 子育て及び子育て支援に関する講習の実施

- *かなちく子育て応援タイム2回(幼稚園トークイベント、おもほりイベント)
 - *お外で!ハロウィンイベント(近隣の老人ホーム・地域ケアプラザとの共催イベント)
 - *ハロウィンウィーク・クリスマスウィークとして、自由参加の工作イベント
 - *足形アート3回 *ストレッチタイム 月2回 *横浜子育てパートナー相談日 4か月に1回
 - *おはなし会(読み聞かせボランティアグループ) *お誕生会 *お花見イベント
 - *地域ケアプラザと「壁面飾り」の交換を通じた高齢者の方々との交流
 - *お弁当イベント 2回 *子育て支援員による手遊びタイム
- ・引き続き、感染対策を行いつつも、地域とも連携し、利用者が参加できるイベントを増やしていきます。また、お弁当イベントを通じて、スタッフ・利用者の意見を聞きながら、お弁当タイムの復活、午前午後の継続開催を検討していきます。

5) 地域の子育て関係者、関係機関・団体や行政機関等との連携

- *福祉保健センター地区担当保健師 *保育・教育コンシェルジュ
- *地区センター・地域ケアプラザ・地域子育て支援拠点との共催企画の実施
- *スタッフが地域の赤ちゃん学級(月1回)・外遊び応援隊(月1回)・子育て支援拠点のスタッフを兼任
- *地域の子育て支援ネットワークへの参加
- *地域ケアプラザとの交流企画
- *子育て支援員との交流企画
- *地域における子ども関連の連絡会への参加

VI 親と子のつどいの広場事業(ほしのひろば)

誰でも、どんな時でも気軽に立ち寄り、のんびり過ごし、他の親子と交流できるよう取り組む。

テーマ「ほっとできる居場所☆ほしのひろば」

1) 子育て親子の交流、つどいの場の提供

●新規登録者数：120組 / 年間利用者数：3469人

- ・利用者の復職が年々早まる中、広場利用が短い期間であっても顔の見える関係の安心感を大切に、大人も子どもも人と人のふれあい・語り合いの中で育み合えるよう、それぞれのニーズに合った過ごし方で、ほっとできるような広場の空気感を日々大切にしました。
- ・他施設等で知り合った方との対話の中から、ほしのひろばを知り、来所してくれる方が多くいました。実際に利用している人からの紹介が、行ってみようと思うきっかけとなり、安心して利用する場となっています。広場が地域に根付き、利用者によって支えられていることを実感しました。
- ・初めての利用のきっかけとなる「赤ちゃんタイム」を、終日利用できる「赤ちゃん Day」に変更しました。それにより、それぞれの都合に合った時間で、より多くの親子が利用できるようになりました。また、既存の「大きい子あつまれ」の日と合わせ、同じくらいの子どもを持つ利用者同士が知り合い、情報交換をするきっかけの場となりました。
- ・一時預かり事業は、152組(月平均12.6組)の利用がありました。近隣で長時間預けることができる施設が充実したため、昨年度に比べ利用は大きく減少しましたが、いつもの利用者が気軽に預けられる場所として定着しています。
- ・地域の中にある「預かり」を意識し、一時預かり事業が“サービス”にならないよう、利用者に声をかけています。スタッフが責任を持って「預かり」をするのはもちろんですが、みんなで見守り合うことで次の利用者の安心に繋がっています。

2) 子育てに関する相談、援助の実施

- ・3か月に1度、横浜子育てパートナーの訪問日を設けることにより、利用者が直接、保育園・幼稚園の情報や地域情報等を聞く機会になりました。
- ・YMCA東かながわ保育園の保育士の協力を得て、毎月先生と話をする時間を設けました。保育園生活や生活リズムの相談等をしている様子が伺えました。知りたい情報を気軽に相談でき、子育てのヒントをいただける貴重な時間となっています。

3) 地域の子育て関連情報の提供

- ・転居してコットンハーバー・ポートサイド地区に住む親子が多くいるため、近隣のクリニックの情報を充実させました。
- ・広場で大切にしている外あそびを、身近に感じてもらえるよう、プレイパークやお出かけ情報コーナーを設けました。
- ・LINE公式アカウントを使用して、広場ニュースを配信すると共に、直前にもプログラムを知らせることにより参加のきっかけに繋がりました。

4) 子育て及び子育て支援に関する講習の実施

- ・YMCA東神奈川保育園の協力で、「トイレトレーニングのお話」と「ごはんのお話会」を開催しました。ごはんのお話会では、当日の給食のサンプルを持って来ていただき、実物を確認しながら管理栄養士の先生の説明を聞きました。両日とも関心が高く、積極的に質問していました。

5) 地域の子育て関係者、関係機関・団体や行政機関等との連携

- ・コットンハーバー地区すくすく子がめ隊合同「ミニミニ運動会」「クリスマス会」「お外でおゆずり会」
- ・福祉保健センター地区担当保健師・民生委員児童委員・主任児童委員・地域ケアプラザ・区民活動支援センター・すくすく子がめ隊他「地域連携ミーティング」(コロナのため未開催)
- ・きらふわ遊びの会「きらきらプレイパーク@星野町公園」年6回参加